

## 第9期京都市民長寿すこやかプラン最終案に係る各ワーキンググループの主な意見について

## 1 高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画

No	委員からの御意見等	事務局の検討結果（案）等
1	<p>85歳以上の高齢者の実態がわかる統計資料があった方がよい。</p> <p>例えば、年齢別の各介護サービスの利用割合等があれば、掲載してほしい。(介護WG)</p>	<p>御指摘いただいた「各介護サービスの年齢別利用割合」をはじめ、当課で把握できるものについては、京都市情報館（ホームページ）に各種統計資料として掲載します。</p>
2	<p>プラン冊子12ページの「主な数値目標の達成見込み」について、第8期プランでは、達成率も記載されていたが、第9期プラン（案）には記載されていない。最終版には達成率を記載する予定か。</p> <p>また、達成できていない項目については、その理由の記載があればわかりやすい。(介護WG)</p>	<p>第9期プランでは、効率的・効果的な行政計画の策定に向け、プランの構成を適宜見直しております。</p> <p>今回、「数値目標の達成見込み」については、主なものに絞って記載をしておき、「達成率」で表現しづらい数値目標が多くなったため、達成率の記載を行っておりません。</p> <p>なお、各施策・事業については、PDCAサイクルに沿って取り組んでいくことが重要であると考えており、毎年度、高齢者施策推進協議会において、全ての数値目標の達成状況を報告させていただき、御審議いただいているところです。</p> <p>「達成できていない項目」の理由について、例えば、数値目標のうち、主観的健康観や手段的自立度（IADL）に悪化の傾向が見られたことについては、27ページの「【コラム⑤】コロナ禍からの回復（2022年度すこやかアンケート調査より）」において原因分析を行っております。</p>

3	<p>2025年に地域包括ケアシステムを構築することを目指して取組を進めてこられたと思うが、どういった状態になれば構築されたといえるのか、京都市の考えを教えてください。</p> <p>国が示す抽象的なものであると思うが、施策を進めていくうえで、もう少し具体的なイメージがあればよいのと思う。(高齢WG)</p>	<p>本市では、第6期プランから、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年を見据え、「京都市版地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組を進めてまいりました。</p> <p>「目指すべき地域包括ケアの姿」については、プラン冊子13ページのコラム①に掲載しており、第7期プランから、当該姿を目指して構築を進めてきたところです。具体的な構築状況については、プラン冊子15ページにおいて掲載しております。</p> <p>第9期プラン中に2025年を迎えますが、構築して終わりというわけではなく、2040年に向けて、人口動態や技術革新等、様々な要因で高齢者を取り巻く環境は変わりゆくものと考えられますので、引き続き、社会情勢の変化に応じて「京都市版地域包括ケアシステム」の深化・推進を図ってまいります。</p>
4	<p>地域における支え合いについて、学区や自治会・町内会等の記載があり、支え合いの一部を担うという構想だと思うが、最近では自治会の加入率が非常に低く、担い手不足が深刻である。</p> <p>若い人の加入率が低いこともあるが、高齢の方の退会も多い。自治会長等、役が回ってきたら困ると思われるようである。役員としては、行政からの配布物が多く、事務処理が追い付かない等も聞いている。</p> <p>既存のやり方を根本的に変えないと地域の担い手不足は解消しないと考える。(高齢WG)</p>	<p>本市としても、「京都市版地域包括ケアシステム」を深化・推進するうえで、地域の担い手として「自治会・町内会」など様々な地域団体の方々に御活動いただくことは重要であると考えております。</p> <p>そのため、パブリックコメントの御意見を踏まえて、プラン冊子14ページ「京都市版地域包括ケアシステムのイメージ」の【学区域】の「多様な担い手」の例示の中に、「自治会・町内会」を追記いたしました。</p> <p>自治会・町内会については、「地域住民の高齢化」や「役員の担い手不足」など課題がありますが、主管局である文化市民局や関係部局とも連携し、加入促進等の取組を進めてまいります。</p>
5	<p>施策番号110「多職種連携によるケアマネジメント支援の充実【充実】」について、「充実」という文言が2回並ぶためわかりにくい。(介護WG)</p>	<p>御指摘を踏まえ、「多職種連携によるケアマネジメント支援【充実】」に記載を変更しました。</p>

6	<p>11月の推進協資料では、「スポーツ関係のグループやクラブに週1回以上参加している方の割合」という数値目標が記載されていたが、それがなくなっているのはなぜか。(介護WG)</p>	<p>健康づくり・介護予防の取組としての運動については、スポーツに限っておらず、より多くの方が取り組みやすい歩くことや体操を主に想定しているため、「会やグループ等に参加している方の割合」に統一することにしました。</p> <p>なお、「会やグループ等に参加している方の割合」は、従来からも、「スポーツ関係のグループやクラブに週1回以上参加している方の割合」を含んだ数値となっています。</p>
7	<p>パブリックコメントの意見 No. 154 (別紙 20 ページ) では、施設の整備等目標数について、異なる方向性の意見が挙がっているということが非常に重要であると考えます。</p> <p>高齢者やその家族の方は、施設に入所しやすくなるよう整備等目標数を高くしてほしいと考えている一方で、施設の関係者と思われる方からは、既に施設が飽和状態であり、担い手がいないという現場の窮状を訴えられていると推測される。</p> <p>立場によって意見が異なってくるため、京都市としては市民に理解を求めることが必要になると考える。</p> <p>また、住み慣れた在宅で、どこまで過ごせるかという点で、在宅サービスの充実も重要な視点だと考える。(高齢WG)</p>	<p>本市としても、利用者側と施設側のそれぞれの立場から、様々な御意見をいただいた点に注目しております。</p> <p>介護基盤整備については、一つの到達点に来たと考えており、今後様々な状態の高齢者に対して、介護サービスの選択肢をしっかりと確保していくということが重要であると認識しております。</p> <p>例えば、施策番号 309 のように、できるだけ在宅での暮らしが継続できるよう、24 時間対応型の在宅サービスである定期巡回・随時対応型訪問介護看護や (看護) 小規模多機能型居宅介護の設置促進を進め、様々なニーズに対応できるような在宅サービスの基盤整備もしっかりと進めてまいります。</p>

8	<p>施策番号 404「介護現場におけるキャリア・専門性に応じた業務の切り分けや、ICT・介護ロボット普及等による効率化・負担軽減の促進」について、看護業界においても重要な課題であると認識している。具体的にはどのような方策があるのか教えてほしい。(高齢WG)</p>	<p>業務の切り分けに関しては、京都府において、令和5年度に「介護のサポート人材(介護助手等)の受け入れ環境整備に係るモデル事業」を実施しており、その結果等を参考に、本市においても手法の検討を進めてまいります。</p> <p>ICTの導入については、ICTを導入することで介護現場における業務の効率化が図られると考えており、京都府の補助事業も活用しながら、検討してまいります。</p>
9	<p>介護ロボットとは、どういったものか。(高齢WG)</p>	<p>一般的に言いますと、「移乗」において、無理な体勢をとらずに動かせるものや、パワースーツのような機器で、体に負担をかけることなく、介助ができるようなものを想定しております。</p>
10	<p>パブリックコメントの意見 No. 102 (別紙 13 ページ) について、京都市独自に処遇改善はできないかという意見に対し、全国一律の制度であるため困難と回答されているが、禁止されているわけではないのか。</p> <p>定率ではなく定額でも上乗せして補助等を検討してほしい。(介護WG)</p>	<p>介護保険制度は、高齢者の介護に係る保険給付費等を、法定の負担割合に基づき、国・都道府県・市町村による公費と、40歳以上の被保険者が納付する保険料、利用者負担を財源として支えている全国一律の社会保険制度です。</p> <p>地方自治体が、定額であったとしても、保険給付費に独自に上乗せすることは、社会保険としての負担と給付の明確な関係を崩すことになることから、実施は困難です。</p> <p>東京都が、家賃等の生活コストが高いことを理由として、介護職員に対する補助を独自施策として実施することを発表していますが、独自施策の実施は、負担と給付の明確な関係を崩すだけでなく、地方自治体の財政状況によって地域差が拡大しかねません。本来は、国において、介護報酬の処遇改善や地域区分による上乗せを適切に実施するべきであることから、引き続き、国に対して、要望してまいります。</p>

## 2 認知症施策推進計画

No	委員からの御意見等	事務局の検討結果（案）等
1	<p>プラン冊子 45 ページについて、認知症高齢者数のうち、85歳以上の認知症高齢者数がわかれば掲載してほしい。85歳以上の認知症の人の方が、中・重度の方が多いと推測されるため、そういった高齢者の実態を示すことにより行政課題がはっきりすると感じた。（介護WG）</p>	<p>85歳以上の認知症高齢者数の推計値を算出することは可能ですが、認知症の初期から重度期に至る症状の進行状況は人によって様々であり、85歳以上の中・重度の認知症高齢者数を算出することはできません。</p> <p>本計画においては、「市内には多くの認知症の方がおられる」「年齢が高くなるほど有病率も上昇し、誰もが認知症になる可能性があり得る」ことを市民の皆様に御理解いただくことを目的に、45～46 ページに認知症高齢者の将来予測に関する図を掲載しています。</p>
2	<p>パブリックコメントの意見 No. 133（別紙 17 ページ）について、認知症カフェを通じて、中・重度の認知症の人の家族の意見を聴くと読み取れるが、認知症カフェに参加するのは比較的初期の人・家族が多く、どのように中・重度の認知症の人の意見を聞いていくのか、具体的な方法を教えてほしい。（高齢WG）</p>	<p>御意見を聴く場としては、「認知症カフェ等」としており、認知症カフェ以外も想定をしております。</p> <p>おっしゃるように、認知症カフェで中・重度の方の御意見を聴くことは難しいと考えておりますので、例えば、家族の会主催の「つどい」や家族が集まれる場等、様々な場を通じてお聴きしたいと考えており、引き続き、検討してまいります。</p>